

「店持ちたい」リノベで夢実現



すし店だった店が洋風居酒屋に変わった。「町を
活気づけたい」と田中鼎さん＝草加市住吉1丁目

草加市役所勤めの人から「振興課」の危機感で15年
中学の同級生との会食で、町は先細りする「(産業
件はなかった。そんな時、都市型産業を育成しないとい
て回ったが、お目当ての物に甘んじていてはだめ。
た。市内外50超の駅前を見草加市も「ベジタウ
草加市で物件探しを始め
立したいと2015年末に生術つくりとして注目され
内の飲食店で働いたが、独再開発が好例で、有力な再
八潮のケーキ店や東京都する。北九州市の小倉駅前
草加育ちの田中さんは、してもいい、担い手も設定
た店が自立つ。まえて事業アイデアを提案
が、今はシャッターが下り社に委託し、街の課題をふ
街道沿いにかつては栄えた生に向い、自治体が民間会
店街の一面にある。旧日光同事業は、中心市街地再
業のことは聞いた。田中さんの店「スバル」
「ベジタウまがづり」の事

草加、まちづくり民間主導

草加市の民間主導による官民連携の「リノベーション」ま
「べり」事業が、「店を持ちたい」という人の夢の実現に
役買っている。3月に洋風居酒屋を開いた田中鼎さん(39)
も、その一人だ。仲間と行政が支えてくれたといふ。

9月、委員会を設置して民と官でアイデアを出し合った。その一つが、起業塾である「リノベーションスクール」@そこか」だった。田中さんは16年11月、3日間あった同スクールに参加。そこで示された物件の1つが、18年前に閉店したすし店舗の再生だった。約10人のメンバー全員で検討。草加駅から6、7分の立地でマンションは多いが、住民が立ち寄る店は少なかつた。教案出たが最終的に、田中さんが、地場野菜を使ったタパス(洋風のおばんざい)を提供するスベイン風のバルを提案するまで、大家さんへも快諾。スクールの仲間が売り上げの目標の立て方を教え、改装の設計施工などもサポートした。大家さんは開店するまでの家賃を免除し、市は金融機関との手続きが円滑に進むように立った。準備期間3カ月で、3月27日に開店した。ガウス張りの店は、女性客にも「入りやすい。こんな店、草加になかったよ」と好評だ。店は田中さんがうつちも含め、1人で切り盛りする。「人を雇えるくらい繁盛させて、みんなに感謝したい」と田中さん。問い合わせは、スバル(050・2018・0069)。(春山陽一)

18年前閉店すし店 洋風居酒屋に再生

上を掲げ、日本代表がリオデジャネイロ五輪出場を決めるなど大きな役割を果たしてきた大会です。毎年大会ごとにレベルは目に見えて上がっています。昨季は主が日本代表の活動に取られたこともあり、年間王者の座を明け渡しました。雪辱を果たすこと踏んだ第1戦の秋田大会。MVPに選ばれたのは今季から主



太陽生命
WOMENS
SEVENS

情報クリッパ

咲き誇るアジサイ1万6000株

NZの強豪 熊谷で試合

ハイランダーズvsパナソニック



熊谷市で8月の
の南半球最高峰
ハイランダーズ
対パナソニック
国際試合が開催
2019年7月
日本大会を盛り
6千円以上の券種
は手に口にする